



『覚・求・徹』

～ 校長室 だより ～

令和7年4月11日(金)

第1号

葛城市立白鳳中学校

校長 中川 順一



白鳳中学校に赴任し、3年目となります校長の中川順一です。初心を忘れず、今も新鮮な気持ちでいっぱいです。校長室だよりを通して校長室からうかがえる学校の姿をお伝えできればと思います。タイトルは本校の校訓から一文字ずつとり『覚・求・徹』としました。白鳳中学校の生徒がこの校訓を常に心に刻み、学校生活を充実したものにしていってくださることを願い、タイトルとしています。

令和7年度白鳳中学校の新たな教育活動がスタート!

新2、3年生だけの4/8の着任式と始業式。まずは新しく着任いただいた10名の先生方の紹介、そして、始業式。冒頭、葛城市より寄贈された蓮花ちゃんのぬいぐるみを紹介しました。始業式では、私から「昨年以上にもっと『居心地の良い学校』にしましょう!」と話しました。卒業生に贈った俳句の作者、高浜虚子の句を在校生の皆さんにも送り、そこから「春笑み」という言葉を紹介しました。春の穏やかな時間をもたらす幸福感や安心感を蝶の舞いと共



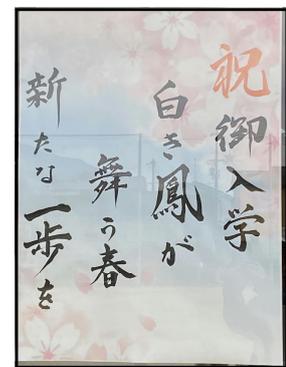
に表現していて、今年1年間がそんな穏やかな「春笑む」ような気持ちで白鳳中学校で「居心地良く」過ごしてもらいたいと願い、今年度最初の文字にしました。みんなでこの春のような優しく、あたたかい笑顔で一年間を過ごしていくためにまずは元気な「あいさつ」から始めましょう! 周りの人たちとのかかわりの入り口に「あいさつ」があります。この「あいさつ」が「春笑む」ためのエネルギーとなります。大切にしていきましょう。

4/10、晴れの入学式。新入生182名を迎え、緊張感の中にも「やる気」と「希望」に満ちた姿で点呼にも大きな返事で答えてくれました。新入生のみなさんには、まもなく開幕する大阪・関西



万博のステートメントから学校という場所が、なぜ必要なのかについてお話しました。学校は目的ではなく、手段です。オンラインでつながるこの時代に学校は人が集まり、

交わり、新しいものが生み出されるそんな場所、もちろん、楽しく、おもしろいです。また、150以上の国・地域が参加する万博では「多様性」が重視されています。本校でも今年度、開校以来と言っていい大きな改革があります。新制服の導入です。白鳳中学校では、この制服の改定を単なる服装の変更ではなく、お互いを認め合うなかまづくりの象徴と考えます。外見を



変えるだけでなく、それをまとう一人ひとりの心を包み、認め合う、まさに白鳳中学校のダイバーシティを実現する象徴と考えます。本校の校訓「覚めよ・求めよ・徹せよ」をしっかりと胸に刻み、これから始まる中学校生活を私たちと一緒に素晴らしいものにしていただければと思います。



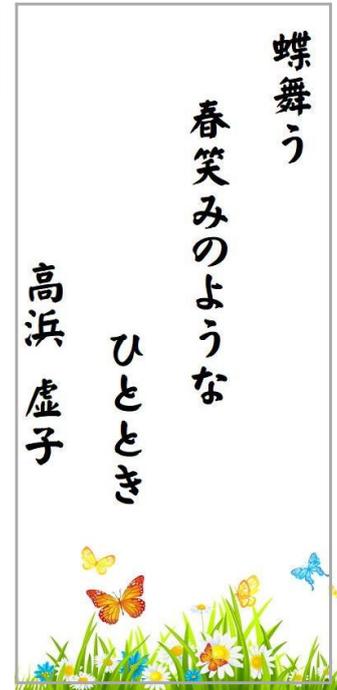
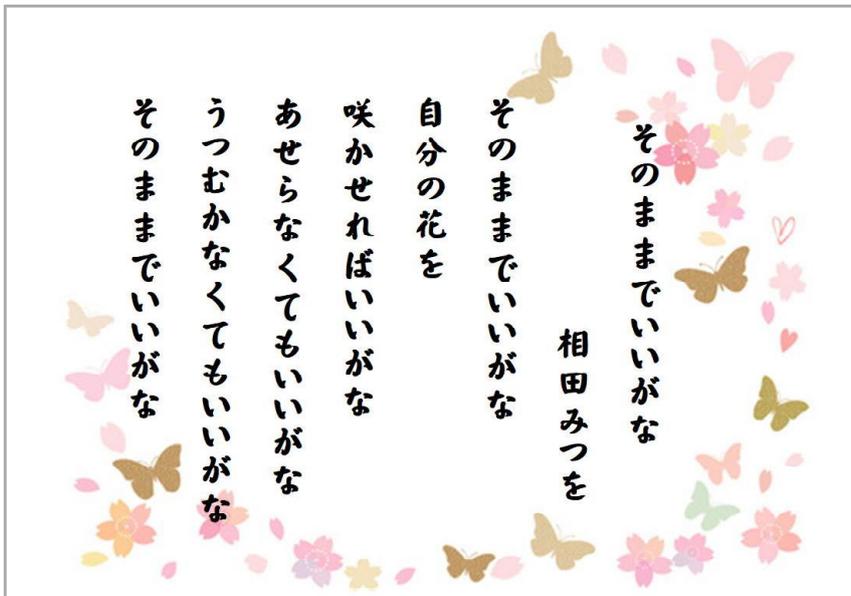
→ 當麻庁舎駐車場から校舎へ向かう農道の桜も満開です！



→ 昨春秋に羽根康英地域コーディネーターから指導を受けながら環境美化委員が植えた中庭の花々も満開です。



始業式で2, 3年生のみなさんに紹介した相田みつをさんの「そのままがいいがな」と高浜虚子の俳句です。 ↓



當麻寺練供養会式(4月14日)

4月14日は中将姫の命日に中将姫が生きたま極楽浄土に迎えられた現身往生を再現したものです。練供養式では西方極楽浄土を象徴する本堂(曼荼羅堂)と俗世間を象徴する娑婆堂を観音菩薩などが往復します。

昨年、国の重要無形民俗文化財に指定されました。1,000年以上続く葛城市の伝統行事です。



第75回創立記念日(4月22日)

昭和24(1949)年當麻中学校と磐城中学校の両校が合併し、白鳳中学校が設立されました。当初の校舎は、竹内(現総合体育館)に建築されていましたが、昭和48年度には現在の校舎が新築され、旧校舎にあった校訓碑も、現在の場所(正門内左側)に移されました。

磐城・當麻の両中学校が合併したとき、校名を各方面から募集し、「白鳳中学校」と決まりました。當麻町の歴史的遺産である當麻寺が、白鳳時代に造営され、「當麻町は白鳳文化の郷」と言われたことに由来します。

白鳳中学校の名称から、「鳳凰」がシンボルとして校章及び校旗に使用されています。鳳凰は、中国でめでたいときに現れる鳥だと言われています。

保護者のみなさま

保護者のみなさまや地域の方々には本校へのご支援、ご協力に感謝申し上げます。本校が、生徒を中心として、教職員、保護者、地域の方々とともに**チーム「白鳳中学校」**として前進していければと願っております。また、学校ホームページにおいても各種通信や学校の様子をお伝えしていきますのでご覧ください。